

和歌山大学  
経済学部同窓会

<http://kourowakayama.com>

柑芦わかやま

南出陽一(高商7回・故人)筆

柑芦会和歌山支部

編集発行人 坂本 漸

〒640-8567 和歌山市西汀丁36

和歌山商工会議所 2 階

山中盛義事務所内

T E L 073-423-1231

F A X 073-433-4066

祝

## 和歌山大学経済学部 開学 100 周年

経済学部創立 100 周年

「あの頃」

元柑芦会和歌山支部長 山中 静 氏

(山中静公認会計士税理士事務所 所長)

(元柑芦会会長・現柑芦会顧問、高商20回)

聞き手：柑芦会和歌山支部長

坂本 漸 (すすむ) 大学8期

和歌山支部創設の頃

戦後和歌山商工会議所で勤務していた関係で、歴代の先輩支部長には懇意にして頂いた。

私はその後、大阪での会社勤めを経て、取得した公認会計士の資格を活かして、昭和27年に商工会議所内に会計事務所を開いた。

高商入学の頃

昭和16年末に太平洋戦争が始まり、翌年の17年に和高商に入学した。武道が必須で弓道部に入部した。

支部機関紙の題字を書かれた南出陽一氏(高商7回)も弓道部の出身だ。

在学期間の内の半年間は学徒動員で住金で働き、学校で勉強できたのは2年間だった。寮生は市内狐島でサツマイモ畑を開拓し、寮での食事に充てていた。



柑芦会和歌山支部「令和4年度・支部総会」開催のお知らせ

開催日時：令和5年6月24日(土)

開催場所：ダイワロイネットホテル和歌山 4階 プレジール

① 支部総会：午後3時～午後3時45分

② 講演会：午後4時～午後5時

講師：和歌山大学 准教授 吉村 旭輝 先生(未定)

テーマ：徳川家康の神忌と大祭～和歌祭の変遷をとおして～

③ 懇親会：午後5時30分～午後7時30分

懇親会会費 8,000円アトラクション：宝子ミニコンサート



\* 出欠の可否は、左記支部メールアドレス(kourowakayama@gmail.com)へ5月20日までにご返信下さい。なお、出欠連絡には「期別」・「氏名」の記載をお願いいたします。

同じ年に創設された和歌山支部活動には、まだ駆け出しの頃で関わっていなかったが、2代目支部長の山東永夫氏（元紀陽銀行頭取）の時から支部活動に関わり、3代目支部長の南方久雄氏（元南方酒造社長は）商工会議所副会頭をされていた関係で、個人的にも懇意にして頂き、麻雀のお付き合いによく誘われた。

和歌山支部長に就任、機関紙「柑芦わかやま」創刊

4代目支部長の中井英俊氏（元三和銀行和歌山支店長）から、15年以上も支部長を務めて、もう80歳になった、（6代目支部長）南村桂太郎氏が幹事長として補佐してくれるから務まるよ、と言われ、5代目支部長を引き受けることになった。

杉浦一平先生（経専1回）の退官記念を兼ねて、安藤精一先生にもご講演頂き、JR和歌山駅前の農協会館で支部総会を開いた。かつてない大勢の支部会員が参加し盛大だった。支部会費は当時も3千円だった。

平成10年、本部会長が10年務めたのを機に辞任の意向を示され、1期だけという条件で本部会長に就任、後任の支部会長を南村さんに引き継いで貰った。

支部機関紙の創刊号は、浜本幸男氏（元県会議員、経専3回）が中心となり、南村桂太郎氏、小池布紗雄氏（大学11期）、藤井武氏（大学13期）が中心になって平成元年10月に発行した。

令和4年4月には第45号が発行されたので、支部活動の歴史を33年間綴り続けていることになる。

今年97歳になるが、座った姿勢から立ち上がる時に少し難儀するが、一日1万5千歩を目標に足を鍛えてきたお蔭で、今も元気だ。和歌山大学のホームカミングデーには欠かさず参加している。

（本対談は令和4年7月に行われました。）

和歌山支部の発足 と歴代支部長	
昭和 27 年	
初代支部長	大場幸一氏（高商 1 回）
31 年	
2 代支部長	山東永夫氏（高商 2 回）
43 年	
3 代支部長	南方久雄氏（高商 15 回）
45 年	
4 代支部長	中井英俊氏（高商 1 回）
61 年	
5 代支部長	山中 静氏（高商 20 回）
平成 10 年	
6 代支部長	南村桂太郎氏（工専 1 回）
20 年	
7 代支部長	久山 稔氏（大学 6 期）
令和 2 年	
8 代支部長	坂本 漸氏（大学 8 期）
	至現在

<追悼>  
 山中 静（やまなか せい）（高 20 回）  
 柑芦会和歌山支部顧問 が昨年末（12月29日）にお亡くなりになりました。  
 昭和 61 年から平成 10 年まで柑芦会和歌山支部 支部長を務められ、その後 2 年間、柑芦会 本部 会長を務められました。  
 温厚なお人柄で、地元経済界での幅広い人脈を活かして、和歌山支部を大いに盛り立てて頂きました。  
 氏は、旧制 和歌山中学校を卒業後、昭和 17 年に和高商に入学、和歌山商工会議所や大阪での会社勤めを経られて、昭和 27 年に和歌山商工会議所内に会計事務所を開かれ昨年 12 月には事務所開設 70 周年記念懇親会を催されたばかりでした。  
 ご功労に感謝致します共に、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

和歌山大学 経済学部のあゆみ  
大学ホームページから、(※)は編集部の注記



1922 (大正 11) 年 10 月  
和歌山市関戸 (現・西高松) に和歌山高等商業学校創立 (※開学は 1923 年 4 月) 1944 (昭和 19) 年 3 月  
和歌山経済専門学校と改称、和歌山工業専門学校設置

1949 (昭和 24) 年 5 月  
新制和歌山大学の経済学部として発足  
1954 (昭和 29) 年 4 月  
商業教員養成課程設置 [2000 年 3 月廃止]  
和歌山大学経済短期大学部 (経営学科第 2 部) 設置(※1995 年 3 月閉学)[1996 年 9 月廃止]



経済短期大学棟 学志館

1957 (昭和 32) 年 4 月  
経済学専攻科経理経営専攻設置 [1966 年 3 月廃止]  
1964 (昭和 39) 年 4 月  
経済学科、経営学科の 2 学科構成となる。  
1965 (昭和 40) 年 4 月  
産業工学科設置 [2000 年 3 月廃止]

1966 (昭和 41) 年 4 月  
大学院経済学研究科修士課程 (理論経済学経済史専攻、1968 年 4 月より経済学専攻) 設置  
1968 (昭和 43) 年 4 月  
大学院修士課程経営学専攻設置  
1970 (昭和 45) 年 4 月  
経済学専攻科 (産業工学専攻) 設置 [1999 年 3 月廃止]  
1987 (昭和 62) 年 9 月  
和歌山市栄谷の新キャンパスに移転



1992 (平成 4) 年 10 月  
昼間主コース・夜間主コース設置 [2007 年度から募集停止]  
ビジネスマネジメント学科 (経営学科を改組) 設置[2016 年 3 月廃止]および社会システム設計学科設置 [2002 年 9 月廃止]  
1996 (平成 8) 年 4 月  
市場環境学科設置[2016 年 3 月廃止]  
1999 (平成 11) 年 4 月  
大学院修士課程市場環境学専攻設置  
2007 (平成 19) 年 4 月  
観光学科設置 [2008 年 4 月より観光学部へ]  
2012 年 (平成 24) 10 月  
創立 90 周年記念式典を開催  
2016 (平成 28) 年 4 月  
3 学科制から経済学科 1 学科プログラム制へ学部再編 (※6 プログラムを設置)  
2021 (令和 3) 年 4 月  
経済学研究科を 3 専攻制から 1 専攻 8 プログラム制へ再編  
2023 (令和 5) 経済学部創設 (和高商創立) 100 周年記念式典<予定>



開学 100 年＜次のステップへ＞  
 和歌山大学に新しい息吹 「社会インフォマティクス学環」開設に期待  
 前大阪経済大学大学院 PD 研究員（経済学博士）  
 石田文雄（短 20 回・院 41 回）



私が和歌山大学に入学した頃（1972年）、経済学部には、経済学科・経営学科・産業工学科、そして、私が入学した短期大学部経営学科の2学部4学科がありました。それから、システム工学部（1995年）・観光学部（2008年）が設置され、現在は4学部4学科、そしてそれぞれに大学院の研究科の設置と発展しています。

さらに今年、2023年4月からは、新しく「社会インフォマティクス学環」という社会科学と工学を掛け合わせた文理融合型教育として、第5の学部・学環が誕生します。

私は、自身の大学生活（生涯学習）を振り返りながら、今日の和歌山大学への期待を記したいと思います。

### 「社会インフォマティクス学環」とは

時代の要請により誕生する「社会インフォマティクス学環」という教育課程ですが、現在ある学部の枠を超えた文理融合型の連携課程として、社会をインフォマティクス（情報技術で分析・把握し変革）できる人材の養成を目指しています。入学定員は30名で卒業時には学士（社会情報学）が授与されます。

この学部再編と大学改革の背景には、文科省の「国立大学改革プラン」（2013年）が以下のような社会経済状況の変化を指摘しています。

- ① グローバル化に伴い、国際的に質の高い高等教育の必要性が求められる。
- ② 18歳人口や労働人口が減少している。（1989年には193万人だった18歳人口は、2028年には103万人となる見込み）
- ③ 世界やアジアにおいて新興国の台頭により日本の位置づけが低下している。大学には、

これに応えるための機能強化として学部の改組や再編という流れがあると考えられます。

今や実社会は、どの分野、どの職業でも、AI や情報データサイエンスなどの学問は必要不可欠になっています。そこで、和歌山大学では、これまでの大学の歴史と発展による強みを生かし、伝統ある経済学部、



そして理系としてのシステム工学部、社会的ニーズに応じて設置された観光学部を環にし、そこへデータ・インテリジェンス教育研究部門を結び付けて、新たな人材育成を図る教育システムをつくることを目指しています。さらに、この学環の魅力は、大学だけで教育するのではなく、実社会の要請に応えられるように、自治体や企業との連携、さらには、中央省庁の移転に伴い和歌山市に省庁移転した総務省統計局、統計センターが実データの利活用などを含めた協力体制を組んでいることです。そして、それを支える教員も三学部から15名、客員教授やゲストスピーカーは実社会の第一線で活躍されている企業家や専門家を招聘する予定です。

### 私の学び直しと「社会インフォマティクス学環」への期待

私は、40代から学び直しに目覚めました。そのきっかけは、和歌山大学の教授陣とともに地域研究で県下の地場産業やまちづくりを調査して地域研究ブックレットづくりに参画させてもらったことでした。私はこの時、実社会での生のデータや情報の活用、さらには経済学の基礎が不足していることを痛感させられました。それから仕事をしながら通信教育で慶應義塾大学経済学部で学び、幸運にも卒論の指導教授は日本中小企業学会の会長で中小企業論の大家でした。私は、和歌山県を代表する梅産業を選び、教授の指導の下で卒業論文を仕上げました。その後、さらに研究することを勧められ本学の大学院に入学しました。梅産業研究の第一人者である橋本卓爾現名誉教授に師事するためでした。この時期は、人生の中でも勉強することがこんなに面白いものかと感じる時でした。又、先の慶應義塾大学の恩師等の推薦で、学術研究の学者・研究者が集まる日本中小企業学会と日本地域経済学会にも加入することができました。そして、還暦からは、仕事の部署も変わり少し時間の余裕もできたので、思い切って博士学位の取得を目指したいと大阪経済大学の大学院に入学、ここでも良い恩師に恵まれました。博士学位のテーマは、もちろん梅産業ですが、橋本卓爾先生の地域産業複合体理論を継承し、和歌山県へ一極集中をもたらした梅産業の形成過程とその産地構造の特徴などを研究しました。そして、更なる研究調査を通じて辿り着いたのは、和歌山県の梅産地に隠された優位性は産地内での经营主体が開発した特許権などを独占せずに、産地発展のために対等な関係で「競争と協調」を重ねながら、持続的なイノベーションを創出したことにある点を見出しました。私は、大阪経済大学での卒業式で、卒業生の総代としてあいさつし、若い卒業生に対して、「大学の門戸はいつでも開いています。再び大学での学びをお勧めします」と大学で私にとっては4回目となる卒業式を終えました。

私は、本学の元学長で山本健慈先生が学長の時に掲げられていた和歌山大学のスローガンをよく憶えています。「和歌山大学は生涯あなたの人生を応援します」そして「地域を支え、地域に支えられる大学をつくります」という、とても温かく心強いメッセージでした。私も、和歌山大学の卒業生・同窓生として、これからも誇りをもって学び続けたいと思っています。そして、今年入学される「社会インフォマティクス学環」で学ばれた卒業生が社会に出て活躍されることを楽しみにしています。

開学100年 <次のステップへ>

「和歌山県の国際化に向けた取り組み」

和歌山県企画部国際担当参事 岡澤 利彦  
経済学部経済学科 36期 (昭和63年卒)



皆さんこんにちは、和歌山県国際課長の岡澤です。昭和63年4月、和歌山県庁に入庁し、港湾課、環境省派遣、健康対策課、行政改革室、国体事務局、観光交流課等を経て、令和2年4月より現職を務めています。事務局より「国際化」について投稿をとの依頼を受けましたので、和歌山県国際課の施策等を紹介させていただきます。

和歌山県国際課の施策は、大きく分けて4本柱からなっています。

- ① 和歌山県の国際化の推進（県内自治体の国際化支援、県民・事業者等への情報提供）
- ② 国際人材の育成（アジアオセアニア高校生フォーラムの開催、青少年交流・学校間提携の支援）
- ③ 在外県人会（移民系、駐在系）との連携（和歌山県人会世界大会の開催）
- ④ 県内在留外国人（外国人労働者、留学生等）の生活支援等（和歌山県国際交流センターの運営「外国人生活相談窓口」「外国人サポートメール」）です。

これらの施策は、県国際課が単独で事業を行うのではなく、県商工観光労働部、農林水産部、教育委員会等の関連部局、市町村、経済・文化団体や高度教育機関、事業者の皆様等、あらゆる部門と連携し事業を実施する総括的（皆様にとっては海外へのドアマン的）な組織となっています。

和歌山大学とは、伊東学長が強く推し進められてきた「国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター」と事業連携し、海外の大学・高度教育機関との連携支援、留学生の生活・就職支援等を行っています。

今回は紙面の制約もありますので、和歌山県の「姉妹提携や各種覚書・協定の締結」について、最近の話題を紹介します。なお現在、和歌山県は、地方自治体間の一般的な友好（姉妹）提携を控え、必要な分野において課題を特定し、交流の実利を創出するため、国及び国レベルの団体を対象とした覚書等を行っています（別添表参照）。



令和3年11月、中国・精華大学と「包括交流に関する覚書」を締結しました。締結者は「和歌山県」となっていますが「和歌山県内の高等教育機関や研究機関を含む」と解釈されており、和歌山県からの優先的な留学生・聴講生や研究者の受入れが想定されており、和歌山大学生等の短期留学（語学



研修) や弘法大師が中国から伝えた「真言密教」の共同研究が期待されています。

令和 4 年 1 月、中国・四川省との友好県省関係の締結を行いました。「パンダ」が結ぶご縁です。四川省「成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地」と白浜町「アドベンチャーワールド」は 1994 年より共同繁殖研究を実施しており大きな成果を上げています。また同省は、2008 年四川大地震をはじめ、長江の洪水等、大きな災害に定期的に見舞われています。3 年前より県・省がこれまで蓄えてきた「災害・減災対策」「防災・減災教育」の知見を交換するシンポジウムを在重慶日本総領事館の参画の下、行っています。併せて四川省は、中国最大の工業都市・重慶市と隣接し、経済発展の目覚ましい地域です。住民の海外への憧れ(特に海、マグロ)は強くアフターコロナの時代に、インバウンド誘致も期待できます。

令和 4 年 10 月、副知事を団長とするミッション団(総勢 40 名:和歌山大学伊東学長も参加)をベトナム(ハノイ・ダナン・ホーチミン)に派遣しました。ベトナム・農業農村開発省、商工省との覚書に基づくものです。前年に輸入が解禁された「温州ミカン(有田みかん)」の更なる量的拡大・販路開拓に関する協議を行うとともに、ハノイにおいて「高度外国人材・留学生」の獲得を目的とした「和歌山プロモーション」開催しました。その成果として和歌山大学が 5 大学と、和歌山信愛大学が 1 大学との間で、学校間交流協定や留学生交換の協定が結ばれました。



令和 5 年 2 月、岸本知事を団長とするミッション団をインド・マハラシュトラ州に派遣しました。世界遺産「アジャンタ・エローラ石窟」の保全と活用を課題とした交流です。覚書の更新と併せて、和歌山県レスリング協会と同州スポーツ青少年総局の間でレスリング技術力向上に関する覚書が交わされました。州都ムンバイはインド最大の経済都市であり、日本語教育施設も盛んにおこなわれているため、商工分野や IT 分野での交流拡大が期待されます。



平成 5 年度は、タイ(観光庁・工業省・商務省他)、香港(貿易発展局・ブックフェア他)、ベトナム、スペイン・ガリシア州(熊野古道&サンティアゴ巡礼道)等へのミッション団の派遣を企画しています。皆様も機会がございましたら参加いただけますようご案内申し上げます。詳しくは、和歌山県HP(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/>)、和歌山県産業振興財団HP(<https://yarukiouendan.or.jp/>)等をご覧ください。

## 【友好（姉妹）提携、覚書等締結状況】

	提携・締結先	提携・締結年月日	名称
友好（姉妹）提携	山東省 （中国）	昭和59年4月18日	日本国和歌山県と中華人民共和国山東省との友好県省関係締結議定書
	ピシネーオリアンタル県 （フランス）	平成5年9月15日	日本国和歌山県とフランス共和国ピシネーオリアンタル県との友好提携協定書
	フロリダ州 （アメリカ）	平成7年10月4日	日本国和歌山県とアメリカ合衆国フロリダ州との姉妹提携協定書
	シナロア州 （メキシコ）	平成8年5月20日	日本国和歌山県とメキシコ合衆国シナロア州との友好提携協定書
	ガリシア州 （スペイン）	平成10年10月9日	日本国和歌山県「熊野古道」とスペイン国ガリシア州「サンティアゴへの道」との姉妹道提携協定書
	四川省 （中国）	令和4年1月26日	日本国和歌山県及び中華人民共和国四川省の友好県省関係の締結に関する議定書
	香港貿易發展局 （香港）	平成25年7月5日	貿易・経済協力促進を目的とした覚書
	マハラジュトラ州 （インド）	平成25年10月9日 令和5年2月3日更新	観光・食品加工分野に係る覚書
	台日産業推進オフィス （台湾）	平成26年2月27日	産業連携に係る覚書
	農業・農村開発省 （ベトナム）	平成27年3月11日	農業分野における覚書
覚書等	商業省 （インドネシア）	平成28年4月19日	経済交流を目的とした共同声明
	工業省 （インドネシア）	平成29年10月11日	産業振興及び技術交流に関する共同声明
	商工省 （ベトナム）	平成30年10月8日 令和3年11月24日更新	貿易及び産業連携促進に関する覚書
	観光庁 （タイ）	平成30年11月30日 令和4年11月22日更新	観光促進に係る趣意書
	工業省 （タイ）	令和元年5月20日	産業連携及び人的交流に関する覚書
	商務省 （タイ）	令和2年4月24日更新 令和元年5月28日	双方中小企業部門の経済発展のための覚書
	清華大学 （中国）	令和3年11月1日	包括交流に関する覚書



紀州東照宮の例祭として1622年（元和8）始まった和歌祭り

昨年は 400 年目の節目の年に当たり、和歌山大学も様々に関わりました。



和歌山大学の留学生が扮する唐人行列です。伊東学長のフェイスブックへの投稿写真から

**吉村 旭輝 YOSHIMURA Teruki / 紀州経済史文化史研究所 (Kii-Plus) 特任准教授**

【和歌山大学着任】2009年【学位】修士(学術)【学歴】龍谷大学文学部、帝塚山大学大学院、千葉大学大学院【所属学協会】近畿民具学会、芸能史研究会、日本民俗学会、和歌山地方史研究会【研究キーワード】祭礼、博物館学、田楽、民俗芸能、地車、芸能史、東照宮祭礼【受賞】全国東照宮連合会

和歌山大学

**解体新書** WADAI ANATOMIA

▼日本でただ一人！  
近世の田楽を専門に  
芸能史を研究



▼ひとり歩きの伝承者が 現代に響かせるハーモニー  
和歌祭に学生 200 人が参加！ 御船歌（おふなうた）30 年ぶりの復興に貢献

毎年 5 月に紀州東照宮で開かれる和歌祭は、紀州徳川家の藩祭で元和 8 年(1622)に始まった雅な祭礼行列。万葉の景勝地・和歌浦を、黄金の神輿の渡御が行く。留学生を含む 200 人超の和歌山大学生もさまざまな芸能に扮して練り歩く。列の終盤には、龍頭駄首の絢爛な唐船が登場、揃いの法被で船を牽く一団から、御船歌が海に響く。鉢巻姿の芸能史研究者がひときわ高らかに歌う。2009 年の着任以来、江戸時代に田楽法師が出勤していた和歌祭の研究に入り、2010 年に学生ら有志とともに御船歌を、2017 年には留学生とともに唐人を復興させてきた。次の 5 月にはまた新たな種目の復興を予定している。

開学100年〈次のステップへ〉

「松下会館の歴史とこれから」

紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus  
前生涯学習・リカレント教育推進室長  
西川 一弘 (大50)



2010(平成22)年7月、センターは全学の地域連携機能を包括する形で「地域創造支援機構 地域連携・生涯学習センター」に改組されます。これまで生涯学習を広義に捉え展開してきた活動を、地域連携と生涯学習に分け、

### 1、松下会館の開館

ご承知の通り、和歌山大学松下会館は和歌山市出身の松下電器産業(現・パナソニック)創業者で和歌山市出身の松下幸之助氏の寄附により、1961(昭和36)年、当時の和歌山大学経済学部(高松地区)構内に建設されました。同館の建設目的は「学内の人間関係を緊密にすること」「学生の自治活動を盛んにすること」などと、「和歌山大学松下会館規程」第一条で記されていました。竣工当時の松下会館は、1階に玄関ホール、売店、食堂、大集会室、小集会室、保健室、学生相談室を、2階には講堂、

「画廊」と位置付けられた講堂のホワイエ、録音室(映写室)、和室、音楽練習室、クラブ連絡室などが配置された「学生会館」でした。建設目的のとおり、多くの学生たちでにぎわっていたと言われています。

### 2、生涯学習教育研究センターとして

1987(昭和62)年に経済学部が現在の栄谷キャンパスに移転して以降、松下会館は空き館となっていました。そんな松下会館に再びスポットがあたります。1998(平成10)年、和歌山大学生涯学習教育研究センター(現在の紀伊半島価値共創基幹 生涯学習・リカレント教育推進室)が整備され、その拠点として再出発しました。全国の国立大学で17番目の生涯学習系センターとして設置されたセンターでは、出来合いの研究成果を一方向的に提供するのではなく、自治体・教育委員会と連携した生涯学習計画づくりに作成プロセスから参画したり、地域のNPO・住民等からの企画提案を受け、連携した生涯学習事業を展開したりと、共創型の生涯学習事業の開発を進めてきました。

その両者を併記することでセンターの役割を鮮鋭化させ、名実ともに地域連携を志向した組織の拠点として「松下会館」が活用されてきました。

### 3、二度目の栄谷キャンパスへの移転

2017(平成29)年3月、地域連携・生涯学習機能を本学に一元化するため、拠点を松下会館から栄谷キャンパスへ移しました。そのため、松下会館は再び和歌山大学関係者不在の時間を過ごすこととなります。なお、放送大学和歌山学習センターは継続入居しましたので、松下会館自体が閉鎖することはありませんでした。

一方で地域連携・生涯学習センターは、2017年(平成29)年4月1日から「クロスカル教育機構 生涯学習部門」に、2018(平成30)年には「地域活性化総合センター生涯学習・リカレント教育推進室」に再改組。さらに2020(令和2)年4月には、従来の地域イノベーション機構・地域活性化総合センターの体制を一新し「紀伊半島価値共創基幹」が発足。当該基幹内に「生涯学習・リカレント教育推進室」が設置され現在に至ります。

### 4、新しい学びの拠点として

2017(平成29)年の地域連携・生涯学習センター移転以降、和歌山大学関係者不在の時間を過ごしていた松下会館ですが、2019(令和元)年、和歌山大学創立70周年記念事業の一環で、松下会館再生事業がスタートしました。松下会館再生事業では、個人や企業など、多くの皆さまからご支援を賜ったことにより、2023(令和5)年2月、「地域と価値を共創する大学」を具現化するシンボルとして生まれ変わりました。これからの松下会館は、松下幸



之助氏の起業家精神、教育・人材育成の思い入れを原点にしながら、生涯学習及び社会人の学び直し（リカレント教育）活動を核に、教育研究活動の促進、起業家教育活動のほか、社会との連携・交流機能等を発揮していきます。

## 5、今回のリニューアルのポイント

今回のリニューアルで、1階には、新しく展示コーナーと気軽なコミュニケーションの場として利用できるリフレッシュコーナーを設置しました。展示コーナーでは、現在、松下会館建設の経緯や会館の特徴を説明したパネル、開館時に発行した和歌山大学学報特輯をパネル化したものを展示しています。展示は入れ替え可能であり、中期的には、みなさまの松下会館に関する思い出がたくさん展示できるようにしたいと考えています。

2階は、大ホール（講堂）の一部をセミナールームに、フレキシブルな学習・研究スペースの提供を可能にしたミーティングルーム、さらにオンライン配信や編集可能なアクティブラーニングスタジオを配置しました。

また、教員や企業関係者との産学連携事業の打ち合わせや交流が可能なスペースとしてイノベーションコモンズを配置するなど、新しい学び方・働き方に合わせた整備となっています。

また、1階・2階の共有空間だけではなく、各部屋には、株式会社 PHP 研究所のご協力によりまして、松下幸之助氏の「語録」を掲示しております。まさに、松下幸之助氏の考え方である「人材育成」を最大限化した施設となっています。

## 6、松下会館再整備にあたりまして

松下会館は時代や大学経営の波に翻弄されながらも、三度甦ることになりました。この再整備が出来ましたのも、柑芦会のみなさまや市民、企業、関係者のご支援があったことです。このご支援とご協力に対しまして、改めて御礼申し上げます。ありが

とうございました。

世界を見渡しますと、新型コロナウイルス感染症の拡大やウクライナ情勢など、世界史に残るような出来事が頻発する時代になっています。松下会館整備におきましてもコロナ禍による生産・物流の影響、ならびに追加の外壁・窓枠の安全対策工事、電化製品の再点検を踏まえ、予定より遅れてのお披露目となりました。

松下会館は、令和5年度より本格的に運用を開始いたします。本格運用が始まれば、1階の展示スペースの活用や定時定点型で見学いただけるような機会も設けてまいりたいと考えております。出来るだけ継続的に活用できるように、コンテンツの工夫を図ってまいりたいと思います。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



↑今年2月5日オープニングセレモニー ↓1階エントランス



追伸：私事で恐縮でございますが、令和5年3月31日を持ちまして、室長を退任いたしました。これまでのご支援に感謝すると共に、新体制に対しても継続的なご支援を賜れば幸いです。ありがとうございました。

令和4年5月28日（土）和歌山大学 柑芦会 和歌山支部  
 令和3年度定期総会が、ダイワロイネット和歌山で開催されました。

総会では、令和3年度活動報告・決算書、令和4年度活動方針・予算案が異議なく了承されました。  
 続いて、役員任期満了に伴う選任について諮られ、副支部長1名欠員に伴い新たに副支部長1名が選任されたほかは、全員留任と決まりました。  
 最後に出席の来賓からご祝辞を賜りました。

来賓挨拶：和歌山大学学長（代理：理事副学長 山本進三 様）  
 経済学部学部長 芦田昌也 様  
 柑芦会会長 北村修一 様  
 前衆議院議員 門 博文 様

新しい幹部役員は次の方々です、

役員 支部長	坂本 漸（大学8期）再任	
副支部長	山崎清作（大学11期）再任	塩路茂一（経短6期）再任
	山本進三（大学39期）新任	
幹事長・事務局長	山中盛義（大学28期）再任	

続いて、講演会に移り  
 和歌山大学客員教授・元経済学部教授 鈴木裕範先生  
 から  
 「紀伊半島の歴史に学ぶ・問われるコミュニティー」  
 と題して、ご講演を賜りました。



続いて、懇親会に移り、30名の出席者がコロナ制限が緩和されて後の久しぶりの楽しいひと時を過ごしました。



懇親会で演奏する宝子さん（教育学部平成11年卒）  
 参加下さった留学生の皆さん。



令和4年度会計報告

柑芦会和歌山支部

1. 一般会計の部

【収支計算書】

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

単位:円

収入の部				支出の部			
科目	予算額	実行額	摘要	科目	予算額	実行額	摘要
前年度繰越額	934,486	934,486		総会費	500,000	402,384	ダイワロイネット和歌山
会員年会費	480,000	436,000	3000円×142名、 1万円1名	支部ニュース発行費	250,000	202,958	「柑芦わかやま」45号
総会会費	280,000	154,000	7000円×22名	通信費	300,000	310,134	会員宛文書・柑芦わかやま送料等
柑芦会運営補助金	380,000	300,000	通信費助成金等	印刷費	50,000	64,390	案内状・封筒等印刷
預金利息	4	4	紀陽銀行普通	事務所費	120,000	120,000	支部事務所借室
雑収入	50,000	10,000	総会祝金	会議費	50,000	1,000	会員慶弔等
				慶弔費	80,000	5,060	版入手数料、出張旅費等
				雑費	50,000	25,015	
				支出合計	1,400,000	1,130,941	
合 計	2,124,490	1,834,490		次年度繰越金	724,490	703,549	
				合 計	2,124,490	1,834,490	

【貸借対照表】

科目	令和4年3月31日	令和5年3月31日	摘要	科目	令和4年3月31日	令和5年3月31日	摘要
普通預金	681,426	443,679	紀陽銀行本店	正味財産	934,486	703,549	
当座預金	253,060	259,870	妙うち上銀行				
合 計	934,486	703,549		合 計	934,486	703,549	

2. 基金の部

【収支計算書】

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

単位:円

収入の部				支出の部			
科目	予算額	実行額	摘要	科目	予算額	実行額	摘要
前年度繰越額	799,532	799,532		就活・交流支援金	100,000	100,000	留学生/硬式野球部支援 (各5万円)
雑収入	5	6	普通預金利息	次年度繰越金	699,537	754,592	
寄付金	0	55,054	匿名	合 計	799,537	854,592	
合 計	799,537	854,592					

【貸借対照表】

科目	令和4年3月31日	令和5年3月31日	摘要	科目	令和4年3月31日	令和5年3月31日	摘要
普通預金	799,532	754,592	紀陽銀行本店	正味財産	799,532	754,592	
合 計	799,532	754,592		合 計	799,532	754,592	

令和5年度収支予算書(案)

柑芦会和歌山支部

1. 一般会計の部

【収支計算書】

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

単位:円

収入の部				支出の部			
科目	予算額	昨年実行額	摘要	科目	予算額	昨年実行額	摘要
前年度繰越額	703,549	934,486		総会費	500,000	402,384	ダイワロイネット和歌山
会員年会費	480,000	436,000	3000円×160名	支部ニュース発行費	230,000	202,958	「柑芦わかやま」46号
総会会費	320,000	154,000	8000円×40名	通信費	300,000	310,134	文書送付料外
柑芦会運営補助金	300,000	300,000	通信費助成金等	印刷費	50,000	64,390	文書外印刷費
預金利息	2	4	紀陽銀行普通	事務所費	120,000	120,000	支部事務所借室
雑収入	10,000	10,000	総会祝金等	会議費	20,000	1,000	幹部役員会等
				慶弔費	50,000	5,060	会員・大学慶弔支部祝金等
				雑費	30,000	25,015	版入手数料、出張旅費等
				支出合計	1,300,000	1,130,941	
合 計	1,813,551	1,834,490		次年度繰越金	513,551	703,549	
				合 計	1,813,551	1,834,490	

2. 基金の部

【収支計算書】

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

単位:円

収入の部				支出の部			
科目	予算額	昨年実行額	摘要	科目	予算額	昨年実行額	摘要
前年度繰越額	754,592	799,532	紀陽銀行・普通	就活・交流支援金	100,000	100,000	留生活活動交流等支援
雑収入	5	6	普通預金利息	次年度繰越金	654,597	699,538	
合 計	754,597	799,538		合 計	754,597	799,538	



令和5年4月1日付で新経済学部学部長、  
和歌山大学新学長が就任されました。

本山 貢 (もとやま みつぎ) 第18代学長  
(前教育学部長)

金川めぐみ 経済学部長



# 男子サッカー部

## 紹介



平素より弊部を応援していただきありがとうございます。私たちは、関西学生サッカーリーグの4部優勝を目指して日々練習しています。現在は17名で活動しています。少ない人数ですが、一人一人がチームのために常に考え行動しています。

## 自他共栄

～和歌山で育つ、和歌山と育つ～

今年は、「自他共栄 ～和歌山で育つ、和歌山と育つ～」をチーム理念として掲げています。このチーム理念は和歌山県唯一の大学学生リーグに所属しているチームとして和歌山県をサッカーで盛り上げたいという思いが込められています。

## WAプロジェクト

このチーム理念のもと、地域に貢献していくためにWAプロジェクトという活動を行っています。昨年は、さつき幼稚園、伏虎少年サッカークラブでサッカー教室を行ったり、NPOクリーン&コネクト様主催の和歌山城内清掃のイベントに参加したりしました。今後はさら

に活動を広げようと考えております。ぜひ楽しみにしていただければ幸いです。



↑ 和歌山城内清掃  
集合写真



伏虎サッカークラブ →  
サッカー教室

## クラウドファンディング



WAプロジェクト活動諸経費や活動環境の整備のために、弊部OBであり、現在、南紀オレンジサンライズFCでご活躍されている竹川恭平様が実施してくださっていたクラウドファンディングが2023年2月28日に終了いたしました。皆様のご協力により、第一目標の30万円をわずか3日で達成し、最終的に約150人の支援者様に約100万円のご支援をいただきました。部員一同、このクラウドファンディングに関わっていただきました支援者様、竹川恭平様、リターン商品を提供していただいた企業様、すべての方々に感謝しております。本当にありがとうございました。今回いただいたご支援をもとに、今後さらにサッカーで和歌山県を盛り上げていけるよう精進してまいります。今後とも応援よろしくお願いたします。

寄稿者 経済 73期 東修斗





## 留学生寄稿

## 「和大祭—模擬店運営の『失敗』体験」

経済学部 72 期 張 展栄 (チョウ テンエイ)

皆様はじめまして、和歌山大学経済学部 4 年、中国出身の留学生、張展栄と申します。2020 年から始まって、この 3 年間世界中で猛威をふるい続ける新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常生活の各面に甚大な影響を及ぼしています。

この長期化流行するコロナ禍は、完全に終息することができないと世の中に普遍的に認識されていることによって、社会は「With コロナ」を新常态として少しずつ前向きに進んでいきます。我々の学校生活も例外ではありません。

2022 の和大祭はコロナ禍中で 3 年ぶりの一般公開で開催されました。人数制限付き一般公開でしたが、2020 年の 1 年生限定と 2021 年の和大生限定の完全予約制より、前向きに大きな一歩を踏み出しました。ちょうどコロナ禍真っ最中の 2020 年和大人に入学して、ずっとオンライン大学生活を送ってきた私にとって、少しかわいそうな話になるかもしれませんが、すでに 3 年生なのに、今回の和大祭は確かに初めて大学生活が実感できる貴重な機会だと思います。そういうわけで、この好機を見逃がさないように、留学生模擬店の出店企画に参加しました。



留学生の模擬店出店も 3 年ぶりでした。

今回は一つの店舗を二つの国がシェアする形で出店しました。和大祭の 2 日間、ベトナムと中国、マレーシアとインドの 4 カ国の留学生は店を運営していました。



中国店の企画グループの一人である私が見ると、今回の店舗運営は大失敗でした。このような経営状況を、本当の経営者は見れば必ず放置逃亡する、本当の投資者は見れば絶対に投資撤回すると思います。

運営前の大失敗：出店する前に、最も基本的なことは、事業実行計画でしょう。ここの第一歩もうすでに大失敗でした。何を売るかをぎりぎりまで決めなかったのがあって、何の器具が必要であるのもわからなかったです。そのような状況で、準備はきちんとしていなくて、準備金などももちろんよく考えていなかったです。ギリギリで何とか準備して、よくわからないうちに出了店しました。

運営中の大失敗：出店前の料理準備、看板デザイン、材料購入などの役割を分けましたが、出店中の接客、後方勤務などの役割分担が不明瞭でしたので、混乱になって商品提供が遅くなったことがあって、準備してきた餃子は粘っこくなって半分程度売れていなかったこともありました。

運営後の大失敗：収益は大事です。今回の模擬店運営は、資金管理の混乱でコストが不明確になって、利益があるかどうかよく確定できなかったです。でも、当然にマイナスになったと思います。経営者、投資者はそのような状況を見て、溜息をついて首を振るしかないでしょう。

経営視点から見て大失敗でしたが、学生生活体験の視点から考えると成功できたと思います。今回の出店運営の体験から、実際的な経営の困難さと、組織の団結力の大切さ及びお客さん、大祭企画会との交流中に日本語や日本社会への理解などについて、大変勉強になりました。社会に出ると、このようなわが

ままな試行錯誤の機会がないでしょう。WINコンコードから材料、必要用品の提供のご支援、国際交流課から器具提供のご助力、心より感謝いたします。皆様のご援助があってこそ、この大学生活で有意義な経験、忘れ難い体験ができました。

### 年会費お支払いのお願い

和歌山支部は支部会員の年会費により運営維持されています。年会費は3千円で、主に支部事務局の運営、柑芦わかやまの発刊に使われます。また本会の機関誌「柑芦」は原則として支部会費納入者に送付させていただいております。

お支払いは、同封の振込用紙（郵便局用と紀陽銀行用）のいずれかをお使いください。なお、ネット等の振込に関しては、下記支部の銀行口座をお願いいたします。その際にはお名前の前に卒期等（例：ダイ 60 コウロタロウ）を入れてください。

紀陽銀行 本店営業部 普通預金 789216

また、今期から本部取扱いの支部会費納入も開始されました。別途取扱業者「株サルト」から「コンビニ収納依頼書」もすでにお手元に届いているかと思えます。

上記「郵便局」、「紀陽銀行」・「コンビニ」のいずれかで納付いただきたくよろしく願いいたします。

### フェイスブックグループ 参加をお願いします。

柑芦和歌山（こうろわかやま）



和歌山大学経済学部同窓会(柑芦会)オフィシャルページ



### 編集後記

和歌山大学に、2023年4月、学部等連係課程「社会インフォマティクス学環」が設置されるなど、新しい取り組みが始まります。地域・大学・同窓の絆を更に深め、より高みを目指してゆきたい、そんな思いで紙面を作成しました。ご協力頂いた皆様にお礼申し上げます。

### 編集委員

- 松野浩行（23期）、山中盛義（28期）、
- 岡澤利彦（36期）、西川一弘（50期）
- （事務局）
- 渥美正道（16期）、渥美盛也（47期）

### 2024年版・次号への寄稿お願い。

今回は冒頭部を「防災」をテーマに編集したいと考えております。大学＝同窓＝地域との結びつきを標ぼうする同窓会として、自然災害への備えは関心の高いテーマだと思います。

ただ、その範囲は広く、取り組みも広範囲に行われていて、僅かな紙面で表現できるものではありませんが、それでも同窓の皆様が、個人で、地域で、また所属する組織で、それぞれ取り組んでおられる一端でも紹介できれば、意義のあることだと考えております。